

茶病虫害防除情報

令和3年8月5日

【第 15 号】

鹿児島県経済連・肥料農薬課

大切な秋芽の充実を図る

秋芽生育期の病虫害防除対策

今年産本茶生産も終盤になりました。梅雨明け後の猛暑の中の茶生産ご苦労様です。今回は秋芽生育期の病虫害防除対策についてお知らせします。秋芽生育期には主要な病虫害が多発生します。これらの病虫害は秋芽の生育充実を損ない、来年一番茶の収量・品質に大きく影響します。また、発生した病虫害は発生源となり、来年の発生量を左右します。この時期は労力には比較的ゆとりがあり、農薬の使用制約も少ないので入念な防除に努めましょう。今年も二番茶後浅刈りや深刈りなど更新園が多いため秋芽の生育は様々ですので芽の生育状態に合わせた防除を心掛けます。

- ☆ 発生する病虫害・・・炭疽病 新梢枯死症 網もち病 **チャノミドリヒメヨコバイ** **チャノキイロアザミウマ** **チャノホカ** **ハマキムシ類** **シャクトリムシ類** **チャノホリダニ** **カンザワハダニ** **マダラカサハラムシ** **チャトゲコジラミ**など
- ☆ 防除のすすめ方・・・秋芽生育期間中の被害を防ぐように1回目・萌芽～1葉期、2回目・3～4葉期に混用散布による体系防除と補完防除で、総合的に病虫害を防除します。品種、更新園などで芽の生育が異なるので生育に合わせた防除をします。

☆ 病虫害の発生と防除のポイント

炭疽病・・・やや多 **網もち病・・・多** **新梢枯死症・・・並**

降雨や多湿条件で生育中の秋芽の軟らかい新葉が感染しますので、秋芽生育期の天候に留意し、予防防除に努めましょう。基本的には萌芽～1葉期に予防効果のある薬剤、3～4葉期に治療効果のあるDMI系薬剤を散布して防除します。また、一昨年発表されたダコニール1000とDMI系薬剤を混用して2～4葉期に1回散布する新技術は体系防除以上の安定した高い防除効果があります。なお網もち病の発病の恐れのある茶園は生育後半に銅水和剤を、新梢枯死症はストロベリノ系薬剤を2葉期頃に補完散布すると的確に防除できます。

チャノミドリヒメヨコバイ・・・並 **チャノキイロアザミウマ・・・少** **マダラカサハラムシ**

今年の発生はこれまで降雨日がやや少ない天候などの影響で三番茶期まではやや多に経過しました。一般に乾燥した晴天が続くと急激に増殖し、秋芽の萌芽・生育期は最も被害を受けます。特に萌芽～生育初期の加害の被害が大きいため防除は遅れないようにします。増殖が速いため、残効性の長い薬剤で、2回程度の防除が必要です。一部地域で増加しているマダラカサハラムシは萌芽・生育初期に同時防除します。

チャノホカ・・・並 **チャノコカモンハマキ・・・やや少** **チャハマキ・・・並** **モギエダシク**

チャノホカは第4・5世代、ハマキムシ類は第3・4世代の発生で、多発することがあります。いずれも若齢幼虫期をねらい体系防除でも防除されることがありますが、多い場合や発生時期が合わない場合には専用剤で補完防除します。モギエダシクは最近局部的に発生がみられます。発生がみられたら、若齢幼虫期に防除します。

カンザワハダニ・・・やや多 **チャトゲコジラミ** **チャノホリダニ**

最近カンザワハダニは更新園などに一時的に多発生することが多く、専用剤での防除が必要です。また、チャトゲコジラミは県内全地域に発生が拡大しており、第3世代幼虫は体系防除の2回目で同時防除します。

☆ 防 除 対 策

秋芽生育期の病虫害基幹防除体系による防除法

防除時期	対象病虫害	防除薬剤名	希釈倍数 (倍)	使用基準
秋芽生育期	炭疽病	1 回目 (萌芽-1 葉期)		
萌芽期	新梢枯死症	フロンサイト SC	2000	14 日前まで 1 回
↓ ◎ 1 回目	網もち病	ダコニール 1000	700~1000	10 日前まで 1 回
1 葉期	もち病	ベフトー水和剤 など	500~700	7 日前まで 2 回
↓	褐色円星病	+ (混用)		
↓	チャノミドリヒメヨコハシ	コテツフロアブル	2000	7 日前まで 2 回
2 葉期	チャノキイロサミウマ	エクスル SE	2000	7 日前まで 1 回
↓	チャノホリカ ハマキムシ類	テッパン液剤 など	1000	3 日前まで 1 回
↓	ヨモギエダシヤク	2 回目 (3-4 葉期)		
3 葉期	チャノホリタニ	インダーフフロアブル	5000~8000	7 日前まで 2 回
↓ ◎ 2 回目	カンザワハダニ	オンリーワンフロアブル など	2000~3000	7 日前まで 2 回
↓	マダラカサハラハムシ	+ (混用)		
4-5 葉期	チャトゲコナジラミ	スタークル顆粒水溶剤	2000	7 日前まで 2 回
		ガンハ水和剤	1000~1500	14 日前まで 1 回
		グレーシア乳剤 など	2000	14 日前まで 1 回

秋芽生育期体系防除の他、問題になる病虫害の補完防除法

対象病虫害	防除時期	防除薬剤名	希釈倍数	使用基準
新梢枯死症 (やぶきた園)	秋芽 2 葉期頃	ダコニール 1000	700	10 日前まで 1 回
		アミスター 20 フロアブル	2000	14 日前まで 3 回
網もち病 (発生の多い園)	秋芽 4-5 葉期 (8 月下旬~9 月上旬)	クプロシールト	1000	3 日前まで -
		コサイト 3000	1000	14 日前まで -
		フジトールフロアブル	500	14 日前まで -
ハマキムシ類 チャノホリカ ヨモギエダシヤク	若齢幼虫期	アファーム乳剤	1000~2000	7 日前まで 1 回
		フェルコンフロアブル	4000~8000	7 日前まで 2 回
		ディアナ SC	2500~5000	前日まで 1 回
チャノホリタニ	秋芽生育初期 発生初期	ガンマイトフロアブル	1000~2000	14 日前まで 2 回
		スターマイトプラスフロアブル	1000	14 日前まで 1 回
カンザワハダニ	発生初期	ダニサラバフロアブル	1000~2000	7 日前まで 2 回
		マイトコーネフロアブル	1000	14 日前まで 1 回
		アグリメック	1000	7 日前まで 1 回
チャトゲコナジラミ	若齢幼虫発生期	ガンハ水和剤	1500	14 日前まで 1 回
		ディアナ SC	2500~5000	前日まで 1 回

秋芽生育期の炭疽病など病害の殺菌剤混用散布による新防除法

対象病害	防除時期	防除薬剤名	希釈倍数	使用基準
炭疽病	2-4 葉期	ダコニール 1000	700~1000	10 日前 1 回
新梢枯死症	(萌芽後最初の	+		
網もち病	降雨から 11-	インダーフロアブル 又は	5000~8000	7 日前 2 回
	12 日後迄)	オンリーワンフロアブル	2000~3000	7 日前 2 回

留意事項

- ☆ 混用の際の薬剤使用濃度は多発条件では高濃度、少発条件では低濃度など適宜判断する。
- ☆ 新梢枯死症の発生が多い茶園では、2-3 葉期散布の効果が高い。
- ☆ 網もち病の発生が多い園は更に 4-6 葉期に銅水和剤を追加散布する。
- ☆ ダコニール 1000 とインダーフロアブルまたはオンリーワンフロアブルおよび主要殺虫剤との 3 種混用は散布試験の結果、薬害などは確認されていない。
- ☆ 害虫防除の殺虫剤萌芽-1 葉期散布は必ず実施することが望ましい。
- ☆ 本混用散布は殺虫剤 2 回目散布時に行うとよい。
- ☆ 本混用散布法が栽培暦に採用されている地区・・・鹿児島・日置地区、始良地区、曾於地区、肝属地区

秋芽生育期薬剤散布時期の芽の生育状態



萌芽-1 葉期

秋芽 1 回目散布時期



2-4 葉期

秋芽 2 回目散布時期

新防除法

ダコニール 1000 + インダーフロアブル混用散布時期

オンリーワンフロアブル